

第 35 講 【 診断論 V 】 教科書 P.108～114

4) 胸脇脘腹を問う

『 胸部を問う 』

胸痛、胸悶、痞満	痰飲伏肺				
胸痛、胸悶、発熱、咳嗽	<table border="0"> <tr> <td>膿血を咯出</td> <td>肺 癰</td> </tr> <tr> <td>鉄錆色の痰を咯出</td> <td>肺 熱</td> </tr> </table>	膿血を咯出	肺 癰	鉄錆色の痰を咯出	肺 熱
膿血を咯出	肺 癰				
鉄錆色の痰を咯出	肺 熱				
胸痛、乾咳、咯痰（血が混じる）、潮熱、盗汗	肺 癆				
刺痛、胸内苦悶、顔色青灰、冷汗がしたたる	真 心 痛				
胸脇部脹痛、嘔気が出ると軽減	肝気鬱結				

『 脇部を問う 』

脹痛、遊走性の痛み	肝気鬱結
灼痛、口苦、舌紅	肝火鬱滯
刺痛、固定性の痛み	瘀 血
脹痛、口苦、目や体が黄色	黄 疸

『 脘部を問う 』

胃脘部冷痛（激烈）	寒邪犯胃
灼痛（激烈）、食べてもすぐに空腹になる、口臭、便秘	胃 熱
灼痛（軽微）、空腹でも食欲がない、舌紅、少苔	胃 陰 虚
隠痛、暖めると軽減、透明な唾液を吐く	胃 陽 虚
脘腹部脹痛、酸腐臭のする未消化物を吐く	食積胃脘

『 腹部を問う 』

大腹部隠痛、暖めたり按えると軽減、泥状便	脾胃虚寒
小腹部脹痛、排尿困難	癰 閉
少腹部から辜丸にかけての冷痛	寒滯肝脈

5) 耳目を問う

① 耳 鳴 : 耳鳴り

突然大きな音で始まる、耳をおさえると増悪する。	実 証（肝胆三焦火）
音が次第に弱まる、耳をおさえると軽減する。	虚 証（腎 虚）

② 耳 聾 : 聴力減退

突然の聴力減退	実 証
久病や老人の聴力減退	虚 証

③ 目 痛 : 目の痛み

目痛、目の充血・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 肝陽上亢

目痛、目の充血、流涙、光がまぶしい・・・・・・・・・・ 風熱犯目

④ 目 昏 : 物がはっきりと見えない

久病、虚弱体質、老人・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 気血両虚、腎精不足

6) 睡眠を問う

(1) 不 眠

不眠とは

・・・寝つきが悪い、眠りが浅くすぐ目が醒める、一睡もできない、夢ばかり見る等。

* 心腎不交 : 寝つきが悪い

* 心脾両虚 : 眠りが浅くすぐ目が醒める

* 胆鬱痰擾 : 目が醒めやすく目が醒めるときドキッとする

* 食 滞 : 横になっても不安な感じがし寝付けない

(2) 嗜 眠

嗜眠とは・・・・・・疲労倦怠感に伴って、たまらなく眠くなるもの。

* 痰湿困脾 : 嗜眠、頭や体が重い、腕悶、苔膩、脈濡

* 脾気虚弱 : 嗜眠 (特に食後)、体が衰弱する、食欲減退、無気力

7) 飲食と味覚を問う

: 口渇の有無、食欲、味覚等を質問する。

(1) 口 渇

口渇とは・・・・・・喉がかわいて、水を飲みたがるもの。

① 口渇多飲 : 口渇が顕著で多量の水を飲む

口渇、多飲・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 熱 証

激しい口渇、多冷飲・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 気分熱盛

口渇、多飲、多尿、痩せる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 消 渴 (糖尿病)

- ② 口渴少飲： 口渴しても水は少量しか飲まない
 口が乾燥、口を漱ぎたくはなるが飲みたくはない・・・ 瘀 血
 口渴、少飲もしくはすぐ吐き出す・・・ 湿 熱

(2) 食欲

① 食欲減退（納呆）

- 納呆、久病、顔色萎黄、疲労倦怠、体が痩せる・・・ 脾胃虚弱
 納呆、胸悶、腹部脹満、苔厚膩・・・ 湿邪困脾

② 厭食： 特定の食物や、食べ物の臭いを嫌う

- 食べ物の臭いを嫌う、酸腐臭を伴う噯気、胸焼け、腹部脹満・・・ 食 積
 油っぽいものを嫌う・・・ 肝胆脾胃湿熱

③ 空腹感

- 食欲旺盛で多食、食べてもすぐ空腹になる・・・ 胃 熱
 多食、食後すぐに空腹になる、泥状便、腹部脹満・・・ 胃強脾弱
 空腹感があるのに食欲がない、あるいは少食・・・ 胃 陰 虚

(3) 味覚

- 口が苦い・・・ 熱 証
 口の中で酸腐臭がする・・・ 食 積
 味覚が減退し味を感じない・・・ 脾胃気虚
 口がしょっぱい・・・ 腎 病

8) 二便を問う

： 大便、小便の量、色、質、排出時の感覚等を質問する。

『 大便 』

(1) 便秘

便秘とは： 大便が乾燥し硬くなり、排出が困難になる。
 あるいは、排出回数が減少するもの。

【 便秘の病機 】

実 熱	—	腸中の老排物が熱と結する（熱結腸道）
陰 虚	—	腸の滋潤が失われる
气 虚	—	腸の伝道が無力になる
陽 虚	—	陰寒内盛により腸道の気機が滞る

(2) 下痢

下痢とは・・・便の性状その他により、溏泄と泄瀉に分けられる。

{ 溏 泄 : 大便が稀く軟らかくなり、形をなさない (泥状便)
 泄 瀉 : 大便が稀く水のようになり、排便回数が増加するもの (水様便)

- * 急激に起こる下痢 (暴瀉)・・・・・・・・・・ 実 証
- * 長期間続く下痢 (久瀉)・・・・・・・・・・ 虚 証
- * 黄色い粥状の便・・・・・・・・・・ 湿 熱
- * 水様便に未消化物が混じる・・・・・・・・・・ 虚 寒
- * 水のような便・・・・・・・・・・ 湿 盛

(3) その他の便質異常

- * 大便が時に乾燥、時に稀くなる、腹痛 (排便後も軽減しない)・・・・ 肝鬱脾虚
- * 大便が始めは硬く、後に泥状となる・・・・・・・・・・ 脾胃虚弱
- * タール状の血便が出るが、排便はスムーズ・・・・・・・・ 瘀血 (上消化道出血)
- * 早朝下痢をもよおし目が覚める、排便後スッキリする (五更泄瀉)・・・・ 腎 陽 虚

『 小便 』

一般原則 { 尿の色が濃く、尿量が少ない・・・・ 熱 証
 尿の色が透明で、尿量が多い・・・・ 寒 証

(1) 尿量の異常

- ① 多 尿 : 尿量が増加する
 - 多尿、口渇、多飲、体重減少・・・・・・・・・・ 消 渴
 - 多尿、尿の色は透明、畏寒・・・・・・・・・・ 虚 寒 証
- ② 少 尿 : 尿量が減少する
 - 少尿、尿の色が濃い、熱感・・・・・・・・・・ 熱盛傷津
 - 少尿、尿の色は透明、浮腫・・・・・・・・・・ 水湿内停

(2) 排尿回数の異常

- * 頻 尿 : 排尿回数が増加する
 - { 頻尿、尿量減少 (色は濃い)、尿意急迫・・・・・・・・ 湿熱下注
 - 頻尿、尿量減少、尿意急迫、尿渋り、排尿痛・・・・・・・・ 淋 証
 - 頻尿、余瀝、夜間多尿 (色は透明)・・・・・・・・ 腎 氣 虚

(3) 排尿障害

* 癆 閉 : 尿閉あるいは排尿困難

- 排尿したいが出ない、小腹部脹満・・・・・・・・・・ 湿熱下注、結石、腫瘤
- 尿意がない、小腹部は脹満していない・・・・・・・・ 津液消耗
- 排出する力がない、腰が冷えてだるい・・・・・・・・ 腎陽不足
- 老人、意識明瞭、尿失禁・・・・・・・・・・・・・ 腎 氣 虚

* 遺 尿 : 夜間不随意に尿を漏らす 腎氣不固

9) 婦女に問う

: 月経、帯下、妊娠等について質問する。

『 月 経 』

(1) 月経周期

周 期	量	色	質	兼 証	病 証
先 期	多	深 紅	稠	舌紅、苔黄	血 熱
	多	淡 紅	稀	舌淡、苔白	氣 虚
後 期	少	淡 紅	稀	顔色萎黄	血 虚
	少	紫 暗	血 塊	小腹部冷痛	寒凝血瘀
不定期	多・少	紫 紅	血 塊	小腹部脹痛	肝氣鬱結
	多・少	淡 紅	稀	腰がだるい	脾腎両虚

- 月経先期：周期が 8, 9 日以上早まるもの
- 月経後期：周期が 8, 9 日以上遅れるもの
- 月経不定期：周期が早まったり遅れたり定まらない

* 閉 経 : 18 歳以常で初潮のないもの、または 3 ヶ月以上月経のないもの。

- 閉経 + 気血虚症状・・・・・・・・・・・・・・・・ 気血両虚 (来源不足)
- 閉経、小腹部脹痛(拒按)、胸脇部脹満・・・・・・ 気滞血瘀

(2) 月経痛

- * 月経前・中に小腹部脹痛(拒按)、胸脇部脹痛・・・・ 気滞血瘀
- * 月経中に小腹部冷痛、経色は紫暗色で血塊を伴う・・・・ 寒凝血瘀
- * 月経後に小腹部隱痛(喜按)、経色は淡紅色で稀い・・・・ 気血両虚

(3) 崩漏：不正性器出血

崩漏とは経血が月経期とは関係なく突然大量に出血するもの、或いは出血が絶えずだらだらとあることを言う。前者を[崩]と呼び、後者を[漏]と呼ぶ。

- * 深紅色で血塊を伴う 熱 証
- * 淡紅色で血塊を伴わない 衝任損傷、気陷証

『 帯下 』

陰道より流出する粘液様物質。綿々として続き帯のようなので帯下と呼ばれる。

- * 白色透明、稀くて多量（無臭） 脾虚湿注
- * 暗色、稀くて多量、足腰が冷えてだるい 腎 虚
- * 黄色粘稠(汚濁臭)、外陰部瘙痒感 湿熱下注
- * 紫紅色で血液様（悪臭） 腫 瘤

『 痛みとその性質・主病 』教科書 P.112

名 称	痛 み 方	よく見られる病証
脹痛	脹った感じ、膨満感を伴う痛み	気 滞
刺痛	錐で刺したような痛み	瘀 血
酸(痠)痛	だるい痛み	虚 証、湿 証
重痛	重く感じられて痛む	湿 証
冷痛	冷えを伴う痛み	寒 証 (実・虚)
灼痛	灼熱感を伴う痛み	熱 証 (実・虚)
絞痛	絞扼痛、疝痛	寒 証、瘀 血、結 石
隠痛	我慢できる持続性の痛み	虚 証
掣痛	引っ張られるような痛み	肝の病証
空痛	疼痛部位に空虚感を伴うもの	気血精髓の不足